

認知症プログラム

認知症とは

種々の原因で脳の細胞が機能を停止させている状態や働きが悪くなったためにさまざまな障害が起こり、生活に支障が出ている状態（およそ6か月以上継続）を指す。すなわち、認知症とは「認知症」という単一疾患をさすのではなく、認知症状を起こす症候群ということができます。



プログラムの設定の考え方

「利用者の人や生活歴」を知った上でプログラムを設定することを大切にしていきます。つまり、どのような性格なのか、どのような生活歴を持っているのか、どのような趣味なのか、何が好き（得意）で何が嫌い（苦手）なのか、ということをよく聴取して、その人が「意欲を持って参加できる」プログラムを本人が選択できるよう実施者が支援していきます。

生活歴へのアプローチ



生活歴や学歴は利用者の人によって様々ですが、誰もが幼少期や成年期を経て成人されております。利用者が実施者のアプローチの元、意欲を持って参加できるプログラムを成長期に合わせて提案した上、本人に選択して頂きます。

例えば大学入試問題（得意な科目）を解ける方には難しい問題を提供し、自分の名前が書けなくなった方には、ひらがなやかたかななど基本的な学習問題を提供していきます。不安で落ち着いて座ってられない方には、本人が落ち着かれる音楽や映画等を提供し、落ち着かれるようにアプローチ致します。

エンパワメントを大切に！

エンパワメント（湧活）とは、人びとに夢や希望を与え、勇気づけ、人が本来持っているすばらしい、生きる力を湧き出させることです。人は誰もが、すばらしい力を持って生まれてきます。そして生涯、すばらしい力を発揮し続けることができます。そのすばらしい力を引き出すことがエンパワメント、ちょうど清水が泉からこんこんと湧き出るように、一人ひとりに潜んでいる活力や可能性を湧き出させることが湧活です。

エンパワメントの原則は下記の8点です。

- (1) 目標を当事者が選択する。
- (2) 主導権と決定権を当事者が持つ。
- (3) 問題点と解決策を当事者が考える。
- (4) 新たな学びと、より力をつける機会として当事者が失敗や成功を分析する。
- (5) 行動変容のために内的な強化因子を当事者と専門職の両方で発見し、それを増強する。
- (6) 問題解決の過程に当事者の参加を促し、個人の責任を高める。
- (7) 問題解決の過程を支えるネットワークと資源を充実させる。
- (8) 当事者のウェルビーイングに対する意欲を高める。

認知症介護実践者等が行う評価

わごころケアセンターでは、6か月に一回改定長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）を行い評価致します。利用者の状態や家族より希望があればMini-Mental State ExaminationやClinical Dementia Rating（CDR）等も行います。

プログラム（療法等 一例）

回想法：一般回想法（昔の歌や活動、物品を通して行う方法）、ライフレビュー、日記。

現実見当識訓練（RO）：日付・季節・居場所など現実の情報を伝えて見当識を高める方法。

音楽療法：「聴く（受動的）、演奏する（能動的）音楽療法」合唱、演奏する方法。

園芸療法：植物の成長に伴って世話をする園芸の諸活動を用いる療法。

花は写生会を行い、野菜は調理し頂きます。

学習訓練療法：簡単な「読み・書き・計算」のような基礎的な学習を行う療法。

クロスワード、パズル、数独、ゲーム、タングラム、ペグボード等で認知刺激を行う。

作業療法：折り紙、クラフト、手芸、料理、塗り絵等本人が出来ることを行う療法。

運動療法：個別機能訓練と併用して行ってまいります。

（例）失行して長らく利き腕で食事が取れない方に握力回復し声をかけ摂取して頂く等。

認知症に対する非薬物療法を希望される方へ

わごころケアセンターでは、認知症になってもよりよく生きることへのアプローチに努めております。その為に人員配置を増員し教育に力を入れておりますので対象の方がおりましたら是非ご紹介下さい。

わごころケアセンター 管理者 吉田 充

TEL：0471-81-0551 FAX：04-7181-0555